

# 「にぎわいや経済生み出す拠点づくり必要」

## 庁舎整備や小学校跡地活用を最優先PJに

現職、新人の一騎打ちになった任期満了に伴う吉野町長選を55票差で制した現職の中井章太(あきもと)町長は、1期目に計画が一旦白紙になった庁舎整備や、旧吉野小学校跡地活用などを最優先プロジェクトに掲げ、2期目をスタートさせた。「立派な建物ができたで終わるのでなく、にぎわいや経済を生み出す拠点づくりが必要」と語る中井町長に今後の町政運営について話を聞いた。



### 吉野町長 中井 章太氏に聞く

―選挙を振り返って。

初当選させていただいた4年前は、ごみ処理という大きなテーマがありました。今回は1期目で、老朽化が進む庁舎の移転を提案、議会で説明をしていきましたが、移転先が不便な場所、より利便性が重要であることから建築をしないことを請求する請願書が議会に提出され、計画を一旦白紙に戻しました。

今回の選挙では、そういった1期目ではできなかった庁舎整備と、経済の循環を生み出すような施設として旧吉野小学校跡地活用を大きな課題に、2期目の最優先プロジェクトに掲げて戦

いました。その部分はやはり選挙の争点になり、数字を見た通り、厳しい戦いになったというのも事実です。

―1期目では就任後すぐにコロナ感染症対策に追われたかと思いますが、その中でどのようなことに取り組みましたか。

1期目は就任3日後に新型コロナウイルス感染症対策本部を立ち上げましたので、コロナ対策が中心になるざるを得ないという町政運営だったように思います。ただ、そういった中でやはり選挙の争点であり、公約に掲げたごみ処理の課題に全力を注ぎ任期中に解決できたことが、大きな成果になったと思います。

もう一つは、定時定路線バスをコミュニティバスからデマンド運行に切り替えたことです。高齢者が多い吉野町にとって移動手段の確保は重要です。この町で住み続けるために、全ての集落に移動手段を確保し続けることが、やっぱり「丁目一番地」でしたね。

大きくはごみ処理とデマンドバス運行というのが1期目4年間の中でできたことの大きなポイントだと思います。

「木のまち吉野」らしい、内装に木をふんだんに使った小中一貫教育校「吉野さくら学園」を令和4年に開校し、そこで2つの小中学校が空きました。庁舎の建て替えは町長就任以前からもともとあった課題ですが、1期目の中で解決していくべきテーマとして出てきています。1期目の中ではできませんでしたが、2期目ですっきりと方向性を導いていきます。

庁舎という単体の物事で考えるのではなく、やはりまちづくりという、町を存続させる視点を持って庁舎整備を進める必要があると思っています。立派な建物ができて、人が戻らなければ町が衰退していきま

# 歴史資源を次の世代に残すまちづくりも吉野のテーマ

―町内の小中学校を統合し

「吉野ゲートウェイ」で



世界遺産登録20周年を迎えた「吉野山」



旧吉野小学校跡地の奥には、町外から多くの観光客を利用し訪れる鉄道が走る

―町内に民間運営のサテライトオフィス&コワーキングスペースがオープンされましたね。

人口減少が課題になる中、町の魂を消さないためにやっぱりにぎわいもそうですし、しっかりとした町が存続できる経済を生み出す形の中で庁舎を考えていかなければと思っています。

やはり長く住んでいると、その場所の資源や良さというものが当たり前になり、どうしても見えにくく関係人口の創出や、移住定住に向けての交流拠点を増やしていくという部分で、一つの拠点になっているように感じます。

―最後に今後のまちづくりビジョンを。

「吉野山」は今年で世界遺産登録20周年を迎えます。吉野の桜を見ようと、春になると多くの人が近鉄吉野線を利用し訪れてくださっています。

ただ、春以外にも一定以上の人に鉄道を利用していただけるまちづくりを考え、残す必要があります。歴史資源を次の世代に残す、残していきたいと思えるまちづくりも、吉野のテーマだと思います。